

新型コロナウイルスの感染が地方の一部で急拡大していることを受け、自治体の間では「第7波の入り口に立った」との見方が広まりつつある。そうした中で迎える3回目のゴールデンウィーク(GW)。へるなびが20〜60代の会員千人を対象に、GWの過ごし方を聞いたところ、カレンダー通り「3連休」(4月29日〜5月1日と5月3〜5日)と答えた人が29・3%と最多で、最長となる「10連休」は13・1%だった。

また、「したいこと」は「自宅で過ごす」(38・3%)、「外食」(33・6%)、「ショッピング」

# 光之國観

クニノヒカリヲミル

370

——観光業界の今を読み説く

## 3回目のGW

グ(22・8%)の順で、(2401万人)と比較「近場の日帰り旅行」はすると68・6%にとどま22・3%、「近場での宿」。ちなみに平均費用は泊10・4%、「遠方の3万4500円で、前年国内旅行」9・8%とな比6・8%増。

エイチ・アイ・エスマン延防止等重点措置(HIS)は予約状況が全面解除されたため旅行動向を分析。総合か、「自宅で過ごすは昨予約者数をみると、1位年より減少し、外出関連は沖縄県で、以下、北海の予定が増加している」という。

JTBは今年のGW(4月26日〜5月5日)について、国内旅行人数は1600万人で、前年京都となっている。大阪府は前年6位から比68・4%増になると推計している。大幅な増加3位とランクアップ。ユニバーサル・スタジ

だが、感染拡大前の19年「ユニバーサル・スタジ



今年のGW、客足の回復を期待する声は大きい(春の京都、岡崎十石舟めぐり)

一方、予約の伸び率ラポした企画など、例年以上に注目されているという。

一方、予約の伸び率ラポした企画など、例年以上に注目されているという。

## 観光地になぎわいも

オ・ジャパンを主目的と豊富なアトラクションがランクアップの要因とみられる。2位には千葉県が入り、入場者数の制限が緩和されたディズニーリゾートの需要回復が後押ししている。「GWの予約はますますだが、足取りはまだ弱い。ニュースで第7波のことも取り上げられ、様子見の段階にある」と関東の旅館経営者は指摘する。

期待の声が大きいのが東北地方だ。地震とコロナ禍のダブルパンチを受けていたが、東北新幹線の全線開業で観光事業者の表情も明るさを取り戻しつつある。

観光支援策「県民割」は期限延長の話が出てくるが、GW期間に適用されるかどうかは不明だ。英断を期待したいところだが。【内井高弘】